

Takashima iseki
高島遺跡

(5次調査)

福岡県八女市津江所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第101集

2014

八女市教育委員会

高島遺跡

(5次調査)

福岡県八女市津江所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第101集

2014

八女市教育委員会

序

古来より、自然豊かな地であった八女地域には、先人達の足跡を示す多くの文化財が各所に残されています。

中でも星野川と矢部川との合流地点の右岸に位置する津江地区は、弥生時代の中頃を中心とした遺跡が数多く埋蔵されている地域としてよく知られています。今回調査を行った津江地区のこの地区は、以前川崎病院新病棟建設に際して発掘調査を行い、紀元前二世紀ごろに稲作がすでに定着していたことを示す稲粃の跡がついた圧痕土器と畑作物の栽培がおこなわれていた証となる豆類の圧痕土器が同時に見つかり、八女地区での農業の始まりと展開を考える上で大変貴重な発見となりました。

今回はその新病棟の東側で計画された介護付き有料老人ホームの建設にともなう発掘調査の報告書です。発掘調査の結果、焼失住居2軒が見つかり、土壙からは移動式カマド状の土器片が出土し、今後、この地区の大陸から渡来してきた人々とののかかわりを考えるうえで貴重な発見となりました。

この報告書が当該遺跡のみならず、市内に点在する文化遺産を深く理解する一助となり、より文化財愛護の心を育むことに寄与出来るのであるならば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解を頂きました医療法人社団慶仁会様をはじめ、川崎病院の関係者の皆様方、また発掘調査に従事していただいた作業員の方々、そして調査報告書などの作成に関わった多くの方々に対し深く御礼を申し上げますとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご声援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成26年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西 島 民 生

例 言

- 1 本書は、介護付き有料老人ホームの建設に伴い、八女市教育委員会が八女市津江に所在する弥生時代後期を中心とした高島遺跡において、平成24年度に医療法人社団慶仁会 川崎病院より委託を受けて八女市教育委員会が実施した5次調査の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が主体となって実施した。
高島遺跡5次調査における現地調査は平成24年8月6日から同年10月26日まで行った。
本報告に伴う整理作業は平成25年度に行った。
- 3 発掘調査で検出した各遺構は、その種類ごとに記号を付し、竪穴住居をSH、掘立柱建物をSB、溝状遺構をSD、土壌をSK、不明遺構をSXと表記した。
- 4 本書に使用した測量図の作成は国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準とした。各種測量図の浄書及び出土遺物の実測図作成・情緒は岩戸山歴史資料館において行った。
- 5 本書に使用した現地写真は永田が撮影したものである。出土遺物については岩戸山歴史資料館において新たに大塚が撮影した。
- 6 本書使用の方位については、すべて真北である。
- 7 本書の執筆、及び、編集については永田が行った。
- 8 本書に関する調査記録、及び、出土遺物は現八女市の岩戸山歴史資料館において保管・収蔵している。

本文目次

1 調査の経過

A 調査に至る経過

B 調査体制

2 遺跡の立地と歴史的環境

3 調査の内容

A 発掘調査の概要

B 調査

図版 (PLATES)

P L 1 全景 (西側から)

P L 2 ~ 5 遺構

P L 6 ~ 8 遺物

挿 図 目 次

- 第 1 図 高島遺跡 (5 次調査) 周辺遺跡分布図 [1 / 12,500]
- 第 2 図 高島遺跡 (5 次調査) 位置図 ~~[1 / 2,500]~~ 約 1/2400
- 第 3 図 高島遺跡 (5 次調査) 遺構配置図 [1 / 200]
- 第 4 図 高島遺跡 (5 次調査) 1 号竪穴住居 [1 / 40]
- 第 5 図 高島遺跡 (5 次調査) 2 号竪穴住居 [1 / 40]
- 第 6 図 高島遺跡 (5 次調査) 1 号土壇 [1 / 40]
- 第 7 図 高島遺跡 (5 次調査) 4 号土壇 [1 / 40]
- 第 8 図 高島遺跡 (5 次調査) 5 号土壇 [1 / 40]
- 第 9 図 高島遺跡 (5 次調査) 6 号土壇 [1 / 40]
- 第 10 図 高島遺跡 (5 次調査) 11 号土壇 [1 / 40]
- 第 11 図 高島遺跡 (5 次調査) 12 号土壇 [1 / 40]
- 第 12 図 高島遺跡 (5 次調査) 2 号竪穴住居 出土土器実測図 [1 / 4]
- 第 13 図 高島遺跡 (5 次調査) 6 号土壇 出土土器実測図 [1 / 4]
- 第 14 図 高島遺跡 (5 次調査) 2, 4, 8, 9 号土壇 出土土器実測図 [1 / 3]
- 第 15 図 高島遺跡 (5 次調査) 12 号土壇 出土土器実測図 [1 / 3]
- 第 16 図 高島遺跡 (5 次調査) 出土石製品実測図 [1 / 2]
- 第 17 図 高島遺跡 (5 次調査) 出土石製品実測図 [1 / 3]

1 調査の経過

A 調査に至る経過

今回の調査については医療法人 社団 慶人会から平成24年4月25日付 24八文財第42号により 当該地で建設予定の介護付き有料老人ホームにおける埋蔵文化財の有無について照会があった。周辺で高島遺跡1～2次の調査が行われており、埋蔵文化財への影響が危惧され、遺跡の広がりを確認するために確認調査を平成24年5月1日に行ったところ、竪穴住居と思われる遺構がみつき、その保存について協議をおこない、調査を実施することが決定した。

B 調査体制

【平成24年度】発掘調査

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	西 島 民 生
教育部長	飯 田 せつ子
文化課長	井 上 富 雄
同 係長	大 塚 恵 治
同 係員	永 田 寧
同 係員	渡 部 真 弓

【平成25年度】整理作業

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	西 島 民 生
教育部長	井 上 俊 裕
文化課長	井 上 秀 樹
同 係長	大 塚 恵 治
同 係員	永 田 寧
同 係員	渡 部 真 弓

2 遺跡の立地と歴史的環境

【地理的環境】

高島遺跡は福岡県八女市津江字高島に所在し、標高約35m程の低位の段丘上に位置している。

八女市は平成22年2月1日に旧八女郡に所在していた立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目に広い行政区域をもった新たな「八女市」としてスタートする事となり、東を大分県日田市、南を熊本県山鹿市と接する広大な県境の自治体となり、多様な生産活動が見られる希有な行政体となっている。東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数見られる。また、中山間部においては地域の気象条件の恩恵を受け、高級茶葉である玉露や良質な巨峰などの生産が盛んに行われている。平野部では福岡県産の苺の主力である「あまおう」や梨、電照菊などを生産している。

これらの生産活動を可能にしている立地は、耳縄山地と福岡・熊本両県を区する筑肥山地により「コ」の字状に囲まれ、大分県との境にそびえる釈迦岳山地に源を発し有明海に向け西流する一級河川である矢部川が形成したものである。古くは水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

しかしながら、時代の流れとともに八女市内で生産される文物の大半は陸上輸送に徐々にシフトし、今では水上輸送手段はほぼ皆無となっている。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進められ、納楚交差点から、今回の調査地付近の納楚東交差点で国道442号線と合流する工事が平成25年5月25日に竣工し、八女筑後バイパスが全線開通した。西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、本発掘調査が行われた津江地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

【歴史的環境】

近年、八女市においては圃場整備事業や各種の開発等により、新たな知見が次々に確認されている。高島遺跡周辺においてもそれは例外ではなく、各種開発に伴って埋蔵文化財の発掘調査例も増加している。以下、津江地区周辺の主だった遺跡を概観してみる。

地区周辺の歴史は古く、その始まりは縄文早期に遡る。県営担い手育成整備事業地内における尺取遺跡では、早期末の押型文土器が多量に出土している。山形文等は個体数が非常に少なく、楕円文が圧倒的な数的有利にある事は、当地方の特異性を示唆している。弥生時代に入ると、低位段丘面や微高地上に遺跡が増加してゆく。平成3年度に行った熊野遺跡の一次調査で、弥生時代中・後期の竪穴住居、貯蔵穴、溝、環濠、木棺や甕棺、石棺を主体とした墳墓群が検出されている。墳墓群や竪穴住居、溝等からの際立った出土遺物は確認できなかったものの、多量の土器が出土した。平成8年度の二次調査の結果ともあわせて、周辺に大規模な弥生集落が存在するのは間違いなく、平成2年度に調査が行われた赤氏遺跡や、平成6年度に調査が行われた平田・六反田遺跡、北ノ前遺跡、野内遺跡からは竪穴住居群、掘立柱建物群、墳墓群が検出され、また、西原遺跡からは総数80基を超える甕棺墓や外来系土器を多量に出土した方形周溝墓等の検出があり、これらを裏付け

るものとして注目できる。古墳時代に入ると、周辺では前述の遺跡以外に高野町遺跡や鍛冶屋遺跡、南中学校校庭遺跡などで比較的まとまった集落跡が見ついている。中でも南中学校校庭遺跡の11号竪穴住居からは、多種多様な土器群とともに多量のミニチュア土器や、辻金具付きの馬具が出土するなど、通常の集落を形成する一戸の住居跡とは明らかに内容が異なっており、注目に値する。

今回の5次調査の調査区の南西側に位置する2次調査で検出された溝状遺構SD-01に接続、または隣接した19基の土壙は、その水流を利用した施設と推測される水流土壙と考えられている。溝状遺構からマメ科の種子圧痕がみられる壺の底部が出土し、土壙の一つからは粘土圧痕土器が出土し、この地域における弥生時代の農業の発展と展開を考えるうえで重要である。

3 調査の内容

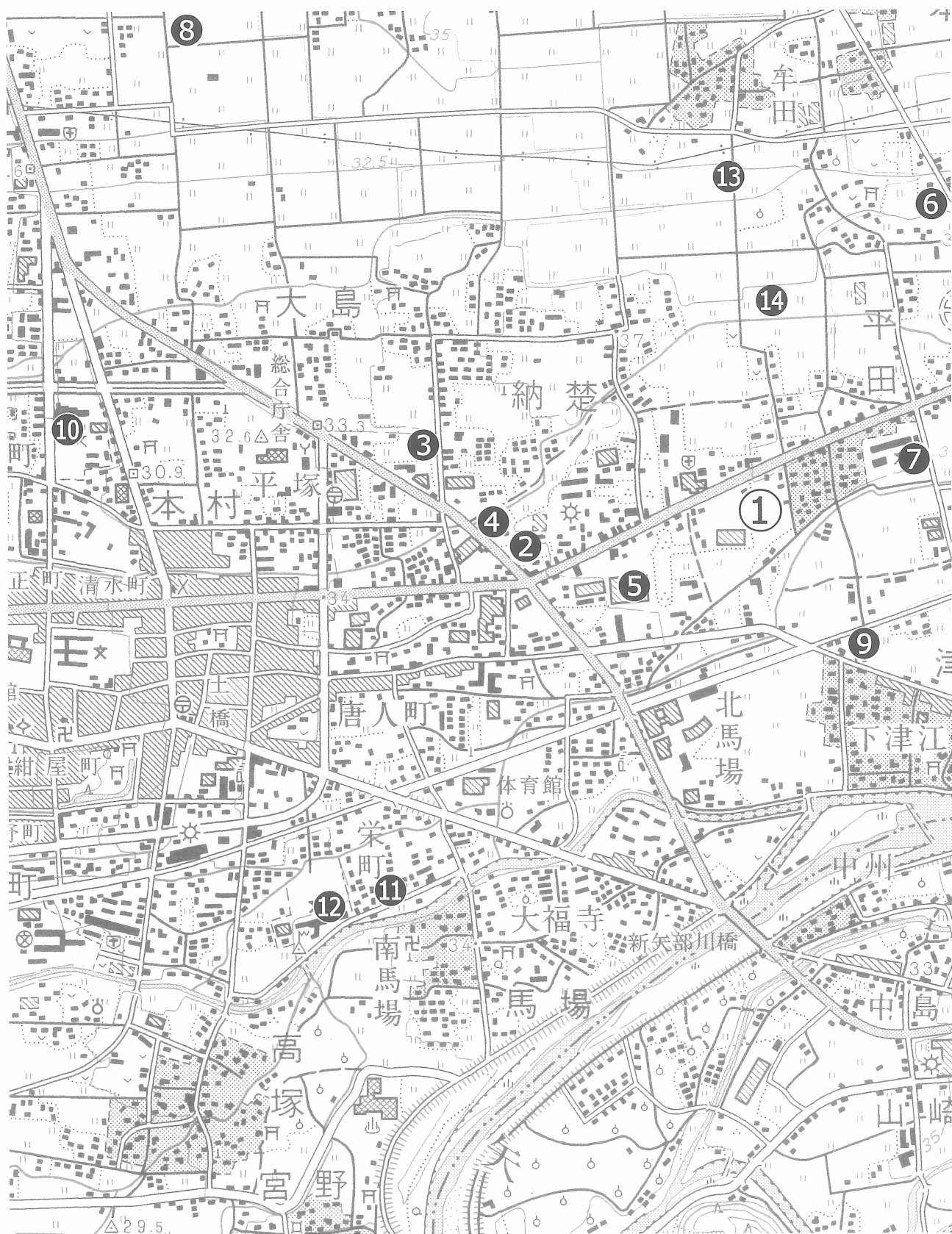
A 発掘調査の概要

調査が始まる前月の7月11日から14日にかけて、北部九州は記録的な豪雨に襲われた。この九州北部豪雨によって、八女市においても土砂災害により2名の命が奪われるなど甚大な被害を受けた。市内の文化財についても石橋の流失などの影響があり、災害復旧作業は長期化することが予想された。

発掘調査は、まだ市内において災害の爪痕が多く残る中で行われた。介護付き有料老人ホームの施設建設予定地2,000㎡を対象とし、バックホーにより、以前ハウス栽培がおこなわれていたという東側に残るマルチなどの除去と、本調査前には駐車場となっていた西側のアスファルトを除去したのち、北側から表土を剥がす作業を行った。遺構検出面まで掘り下げた個所から順次発掘作業員により遺構の検出を行った。3か月半ほどの調査の結果、方形の竪穴住居2軒、土壙12基が見つかった。

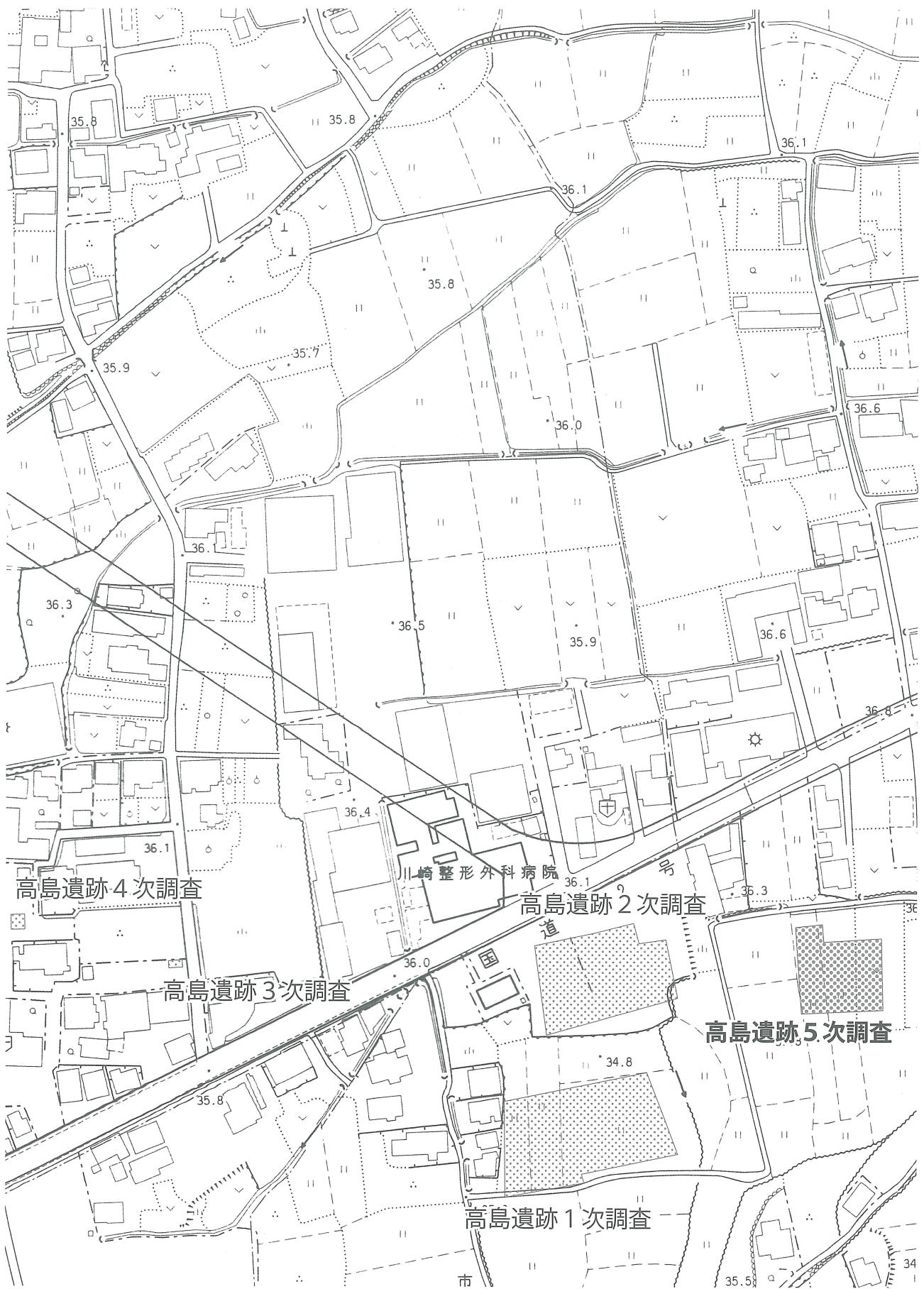


確認調査時に検出された1号竪穴住居



1. 高島遺跡 (5次調査) 2. 赤氏遺跡 3. 万上田遺跡 4. 錦遺跡 5. 熊野遺跡
 6. 口ノ坪遺跡 7. 後ノ江遺跡 8. 祈祷院遺跡 9. 津江八升町遺跡
 10. 福島中学校校庭遺跡 11. 渕ノ上遺跡 12. 南中学校校庭遺跡 13. 西原遺跡
 14. 平田・六反田遺跡

第1図 高島遺跡 (5次調査) 周辺遺跡分布図〔1/12,500〕



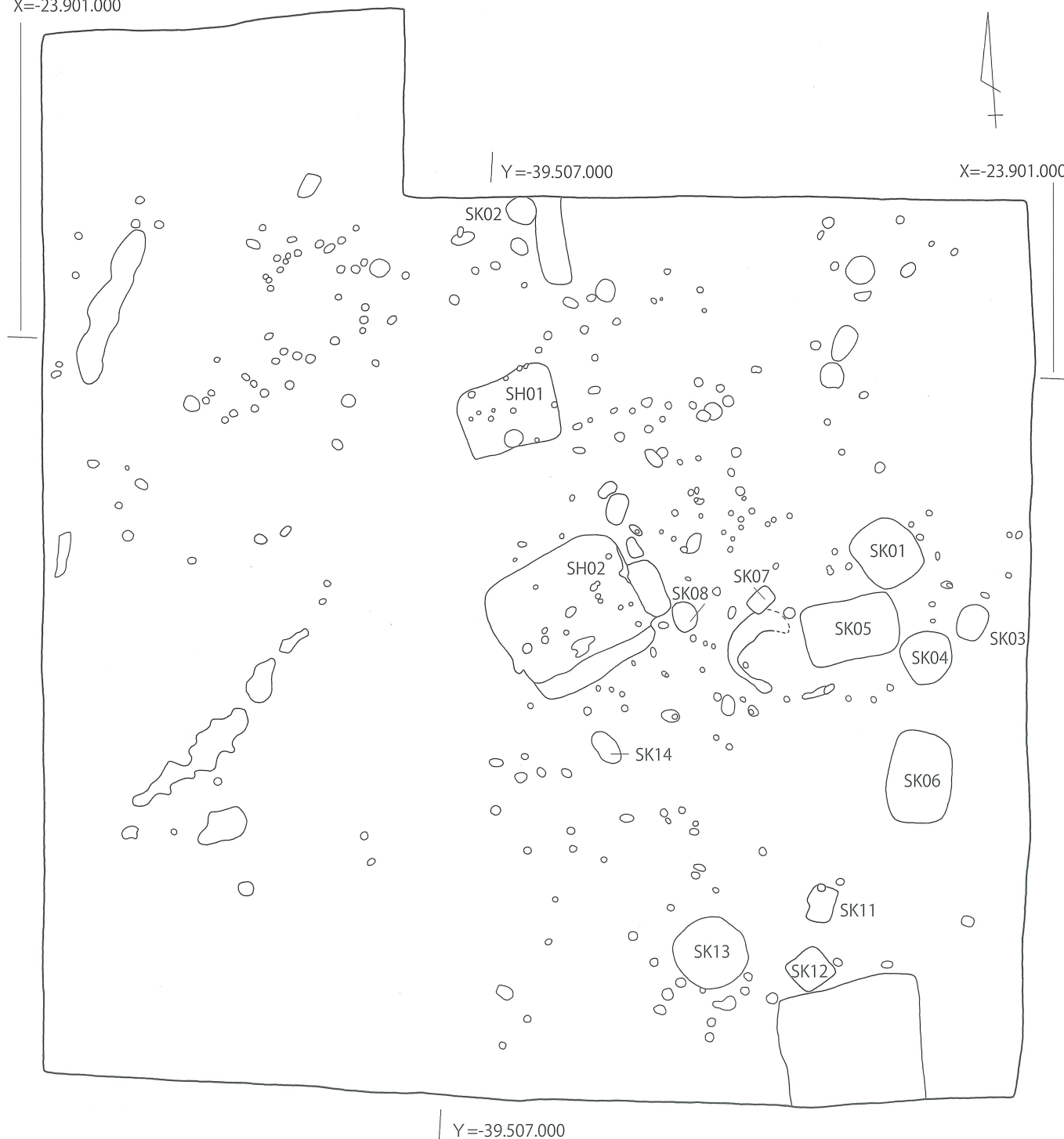
第2図 高島遺跡（5次調査）位置図〔1/5,000〕

約 1/2,400

X=-23.901.000

Y=-39.507.000

X=-23.901.000



第3図 高島遺跡（5次調査）遺構配置図 [1 / ²⁰⁰~~300~~]

B 遺構と遺物

高島遺跡 5 次調査では竪穴住居跡 2 軒のほか、6 個の土壇が検出できた。2 軒の竪穴住居跡はいずれも調査区の中央付近で検出された。遺構のすべては調査区の東側半分で見つかり、西側ではピットが散在する程度で明確な遺構は検出されなかった。

竪穴住居

竪穴住居は 2 軒見つかり、いずれも炭化物を伴う。

1 号竪穴住居〈第 4 図〉

調査区中央北側で見つかった竪穴住居跡で、確認調査時に西側が検

第 4 図 高島遺跡（5 次調査）1 号竪穴住居〔1/40〕

出されていた。隅丸長方形のプランで長軸長 3.1 m、短軸長 2.36 m、長軸方向を主軸として方位 N-61°-E、残存状態は悪く、深さ 5 cm 程度を残して削平されているものの、熱を受けており、埋土中から炭化物の存在が確認できた。床面に 2 本の柱穴と、南東壁中央に屋内土壇を設ける。出土遺物〈第 17 図〉

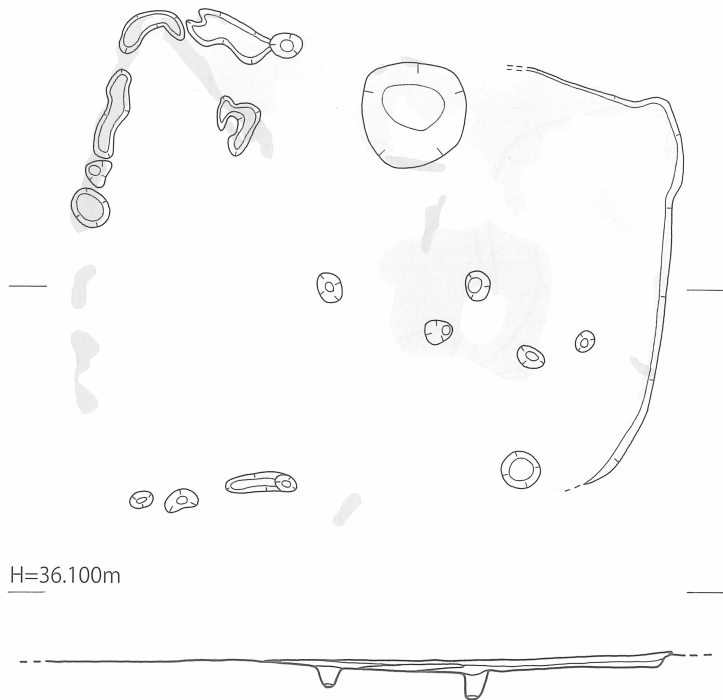
土器の出土は無く、砥石が 1 点出土した。46 は長さ 13 cm、幅 3.7 cm、厚さ 1.7 cm の砥石で、片面のみ使用している。

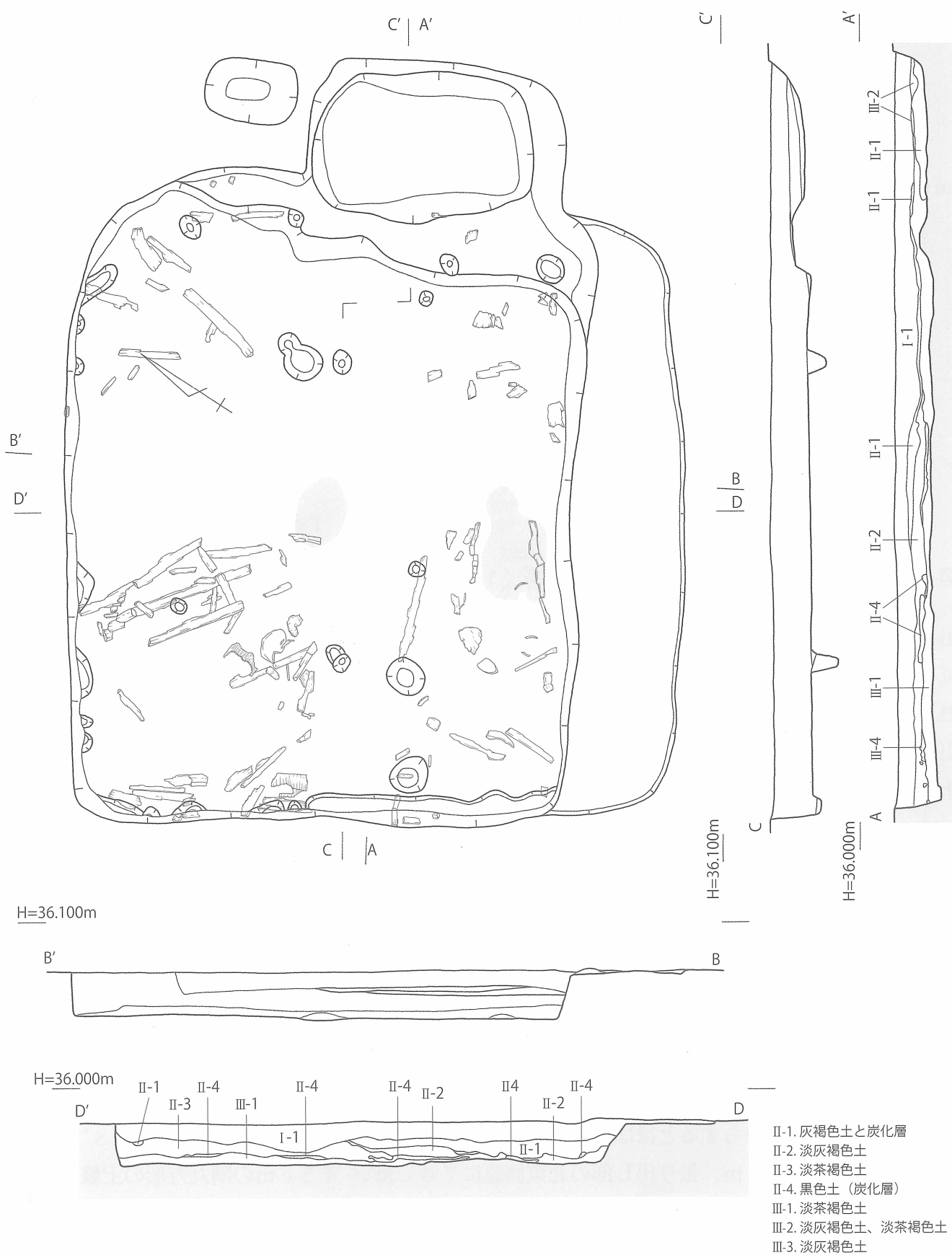
2 号竪穴住居〈第 5 図〉

調査区中央で検出された竪穴住居跡で隅丸長方形のプランで、床面には柱穴が 2 箇所確認できた。中央に炉を設けている。北東側の中央南寄りに方形の張り出し部がある。おそらく火災にあっており、炭化した上部構造物が確認できる。炭化した面がこの竪穴住居を利用した当時の床面とすると、張り出し部は一度竪穴住居の床面まで掘り下げた後、再び土を入れて高くして段差をつけたようである。なお竪穴住居跡に張り出し部が接する両側にそれぞれ柱穴がある。北東壁側には幅 80 cm のベッド状遺構が設けられる。張り出し部を換算しなければ長軸長 4.75 m、短軸長 4.45 m でこの竪穴住居の規模からするとほぼ正方形に近い印象を受ける。長軸長の方位は N-33°-E で残存する深さは 30 cm、張り出し部の北東側脇に 70 cm × 45 cm の隅丸方形の土壇が検出された。

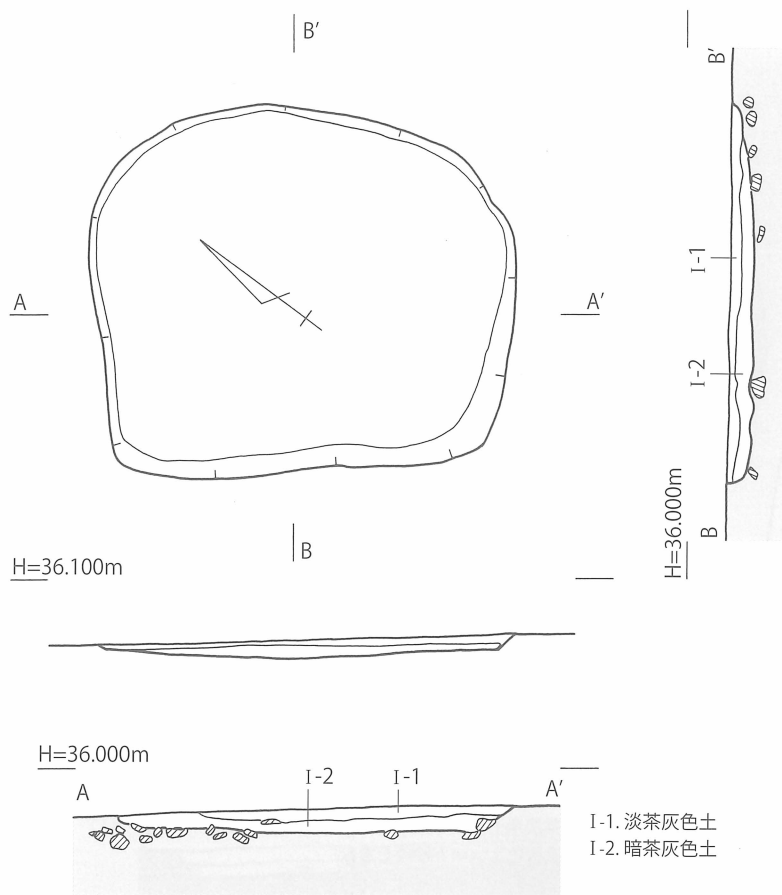
出土遺物〈第 12 図〉

1 は甕で、口縁部が「く」の字状となり、口唇部を丸くつくる。外面に目の細やかなハケ目がみられる。2、3 は甕で 1 と同様、口縁部が「く」の字状になる。2 は外面に細かいハケ目。4 は甕の口縁部

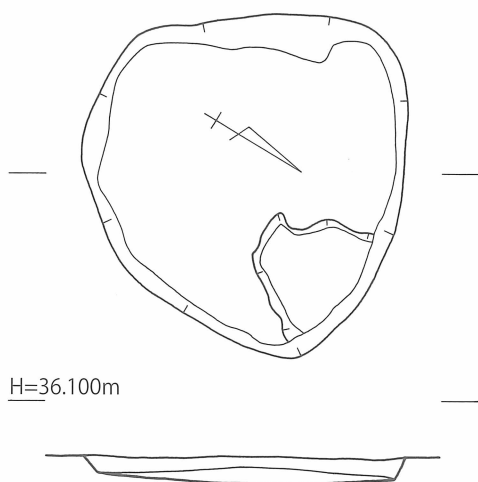




第5図 高島遺跡 (5次調査) 2号竖穴住居 [1/40]



第6図 高島遺跡（5次調査）1号土壌〔1／40〕



第7図 高島遺跡（5次調査）
4号土壌〔1／40〕

片で内側が張り出し気味で、やや鋤先状となる。5、6は甕の口縁部片で口縁部が「く」の字状になる。7、8は甕の底部でやや上げ底状となっている。9は甕の底部。

10は甕で「く」の字状の口縁部をもつ、摩耗が激しい。11、12は甕でこの竪穴住居から出土したほかの甕と比べて口縁部が「L」字気味である。13は鉢形土器。14は器台。40は石包丁で長さ13.3cm、幅4.2cm、厚さ0.6cm。45は砥石で長さ12.9cm、幅9.6cm、厚さ5.9cm、一面を除いてすべての面を使っている。47は砥石で残存長が5.5cm、幅1.6cm、厚さ1.1cm。

土壌

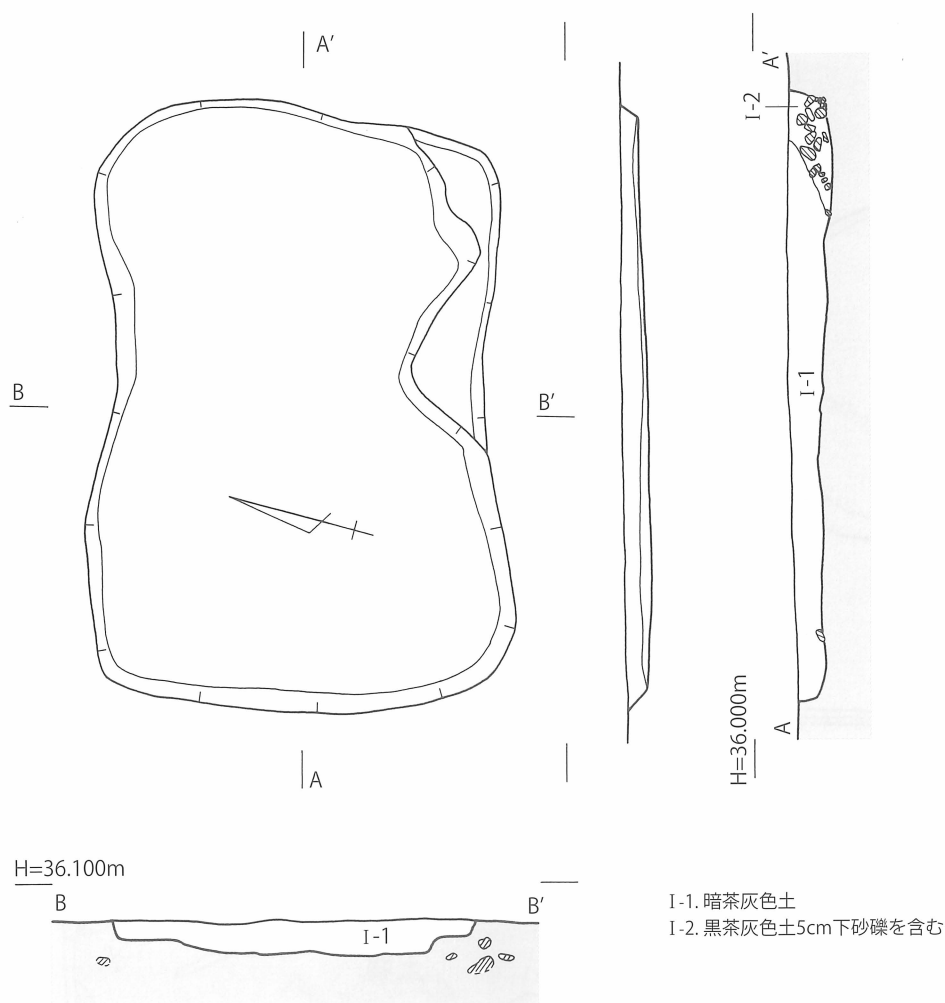
今回の調査では隅丸方形～長方形の土壌が複数見つっている。多くの丸石が埋土中に含まれ、土壌自体も残存状態はあまり良くないものが多い。ほとんどの土壌が北側壁中央付近に集中している。

1号土壌〈第6図〉

調査区東側で検出されたいびつな隅丸方形の土壌で、長軸長2.2m、短軸長1.9mである。長軸方位N-32°-W。

出土遺物〈第13図〉

土器の出土は無く、石製品が1点出土した。42は敲石で最大幅10.2cm、最小幅7cm、厚さ6.9cmで、中央に残る敲打



第 8 図 高島遺跡（5 次調査）5 号土壌〔1 / 4 0〕

痕に黒色の光沢のある鉱物が付着する。

2 号土壌

北側壁中央付近で検出された直径約 1 m の円形の土壌である。井戸の可能性も考えられる。

出土遺物〈第 1 4 図〉

2 8 は無頸の壺で口縁部は短く強く屈曲する。復元口径は 1 0 . 2 c m 程度で小型である。2 9 は甕で口縁部が「く」の字状となるもので摩耗が激しい。

3 号土壌

調査区の東側壁中央付近で検出された土壌で、出土遺物は無い。

4 号土壌〈第 7 図〉

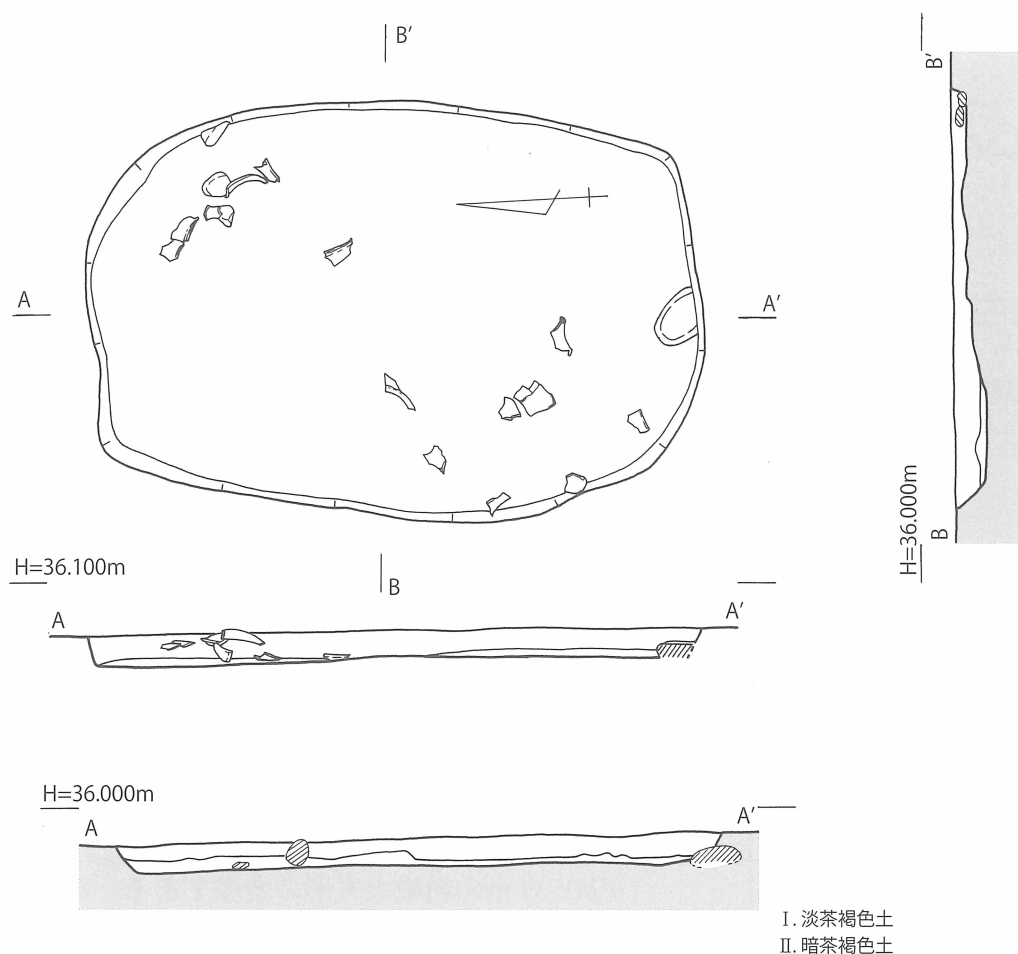
北側壁中央付近で検出された土壌で、最大径 1 . 8 m の円形の土壌である。

出土遺物〈第 1 4 図〉

2 7 は甕口縁部片で「く」の字状に外反する。3 1 は甕の底部。3 2 は脚付甕の底部。3 5 は鉢形土器で口縁部が内彎し、外面は細かいハケ目で仕上げられている。3 6 は器台の底部片か。

5 号土壌〈第 8 図〉

調査区の東側中央付近で検出された長軸長 3 . 1 0 m、短軸長最大 2 . 2 0 m、長軸方位 N - 7 5 ° - W、



第9図 高島遺跡（5次調査）6号土壌〔1／40〕

長軸辺の中央がくびれたような隅丸方形の土壌である。出土遺物は無い。

6号土壌〈第9図〉

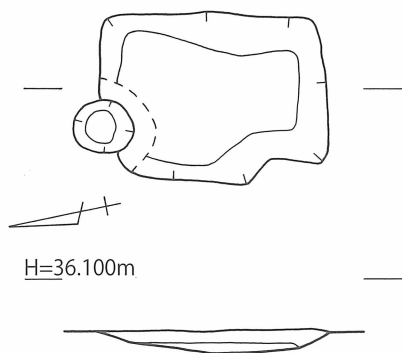
調査区東壁中央南よりで検出された土壌で、長軸長3.26m、短軸長2.22m、長軸方位N-2.5°-W、若干コーナーを意識した胴張りな方形を呈する土壌である。他の土壌と比較して出土遺物は多いが、この土壌も他の土壌と同様、20cm程度の丸石が多量に流入している。

出土遺物〈第13図〉

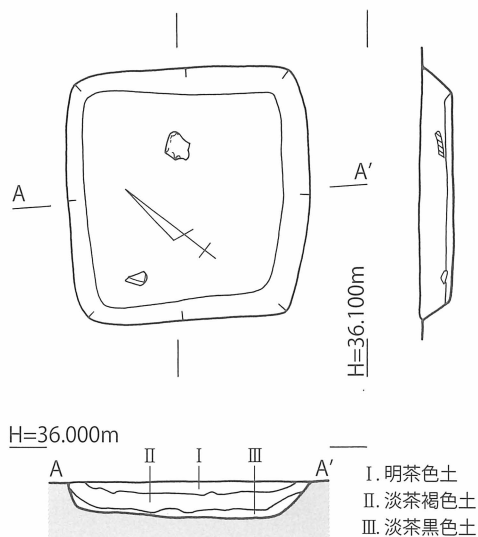
15は器台である。内部は摩耗が激しい。16は壺の口縁部の細片、17は甕で鋤先口縁が垂下している。18～22は甕の口縁部片、23は甕の底部で底部内側に指圧痕あり。24は甕の底部で指圧痕あり。25は甕の底部で底部中央で幅3cmの穿孔がみられる。26は甕の口縁部片で、移動式カマド状に胴部が焚口状に穿たれており、その周辺部が被熱し赤褐色に変色している。41は石包丁片であるが方形に整え、何らかの用途に転用していると考えられる。

7号土壌

2号竪穴住居から東に5mほどのところで見つかった土壌で方形を呈する。



第10図 高島遺跡（5次調査）
11号土壙〔1／40〕



第11図 高島遺跡（5次調査）
12号土壙〔1／40〕

8号土壙

2号竪穴住居の東側に隣接する円形の土壙で、
出土遺物〈第13図〉

30は甕の口縁部の細片である、摩耗が激しい。

9号土壙

2号竪穴住居の張出部の北側に設けられた方形の約
70cm×45cmの方形の土壙である。方位も長
軸が住居と並行に揃えられており、住居に付随する土
壙である可能性が高い。遺物の出土は無い。

出土遺物〈第13図〉

33は甕の底部で、やや上げ底状となっている。

10号土壙

2号竪穴住居の北側で検出された土壙で、方形を呈す
る。出土遺物は無い。

11号土壙〈第10図〉

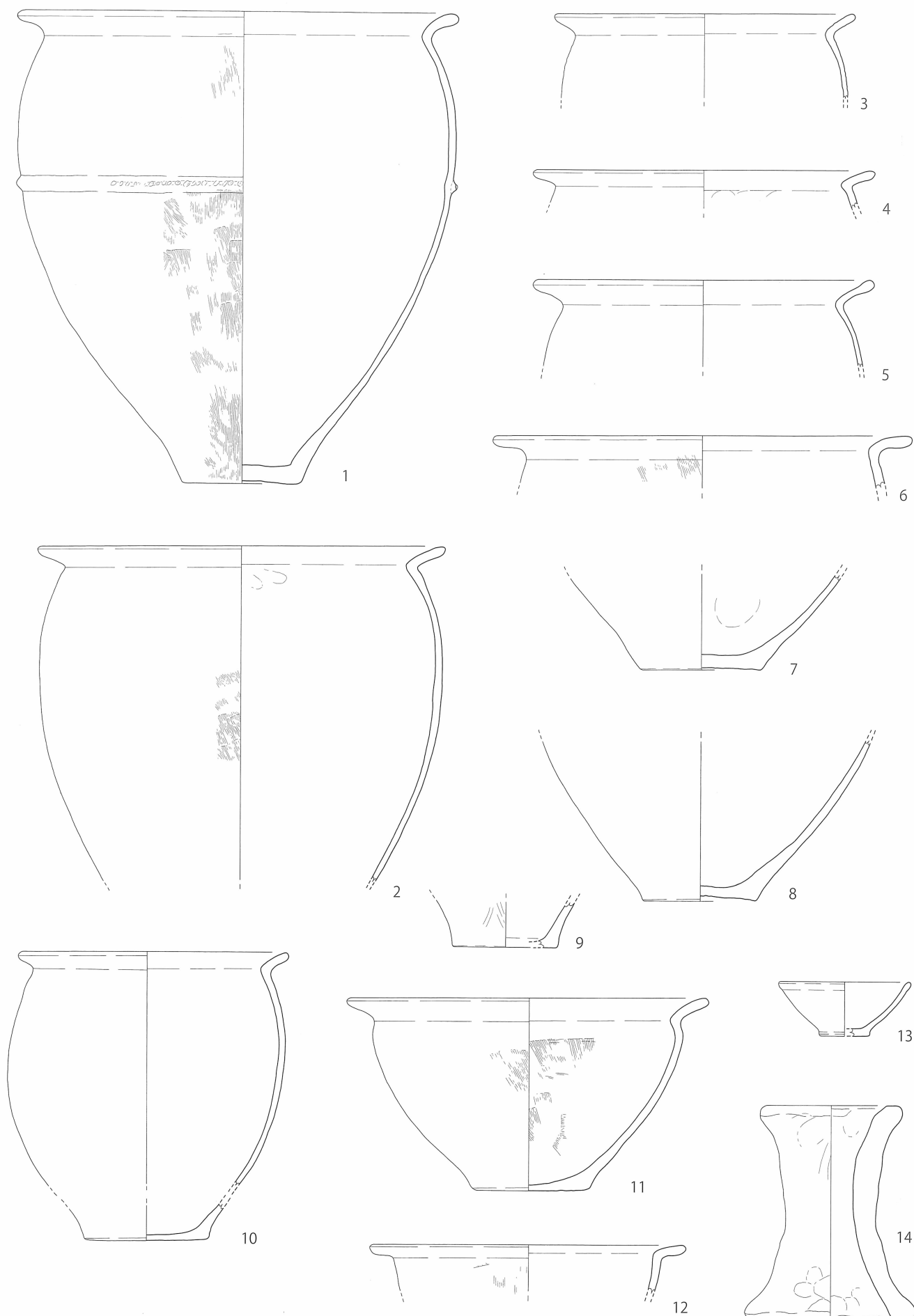
方形の土壙で長軸長1.1m、短軸長の方形を呈する
土壙である。出土遺物は無い。

12号土壙〈第11図〉

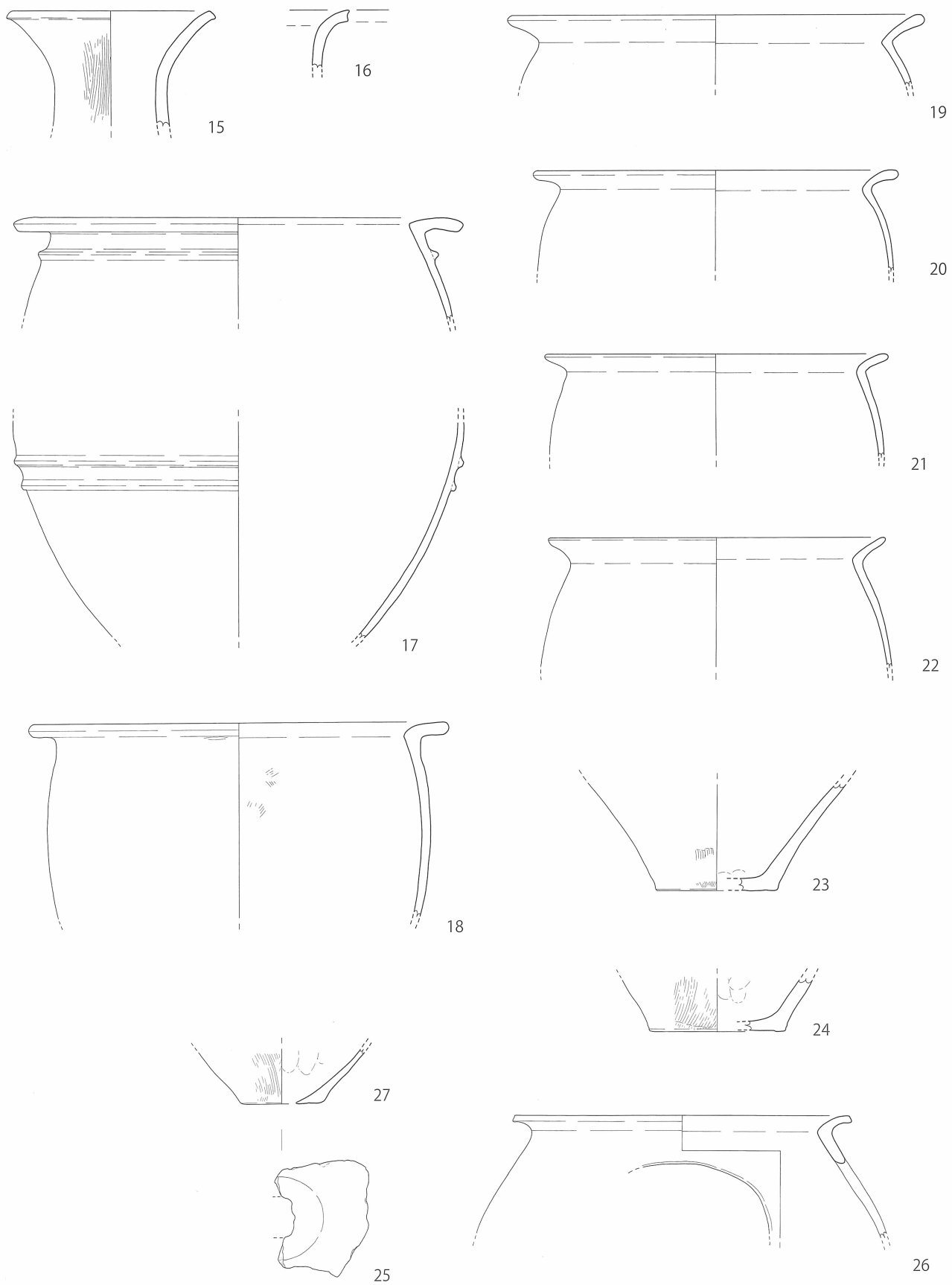
1辺0.8mの精緻な方形の土壙である。床面で中央
やや北東よりに砥石、西側隅に別の砥石片が見つかった。

出土遺物〈第15図〉

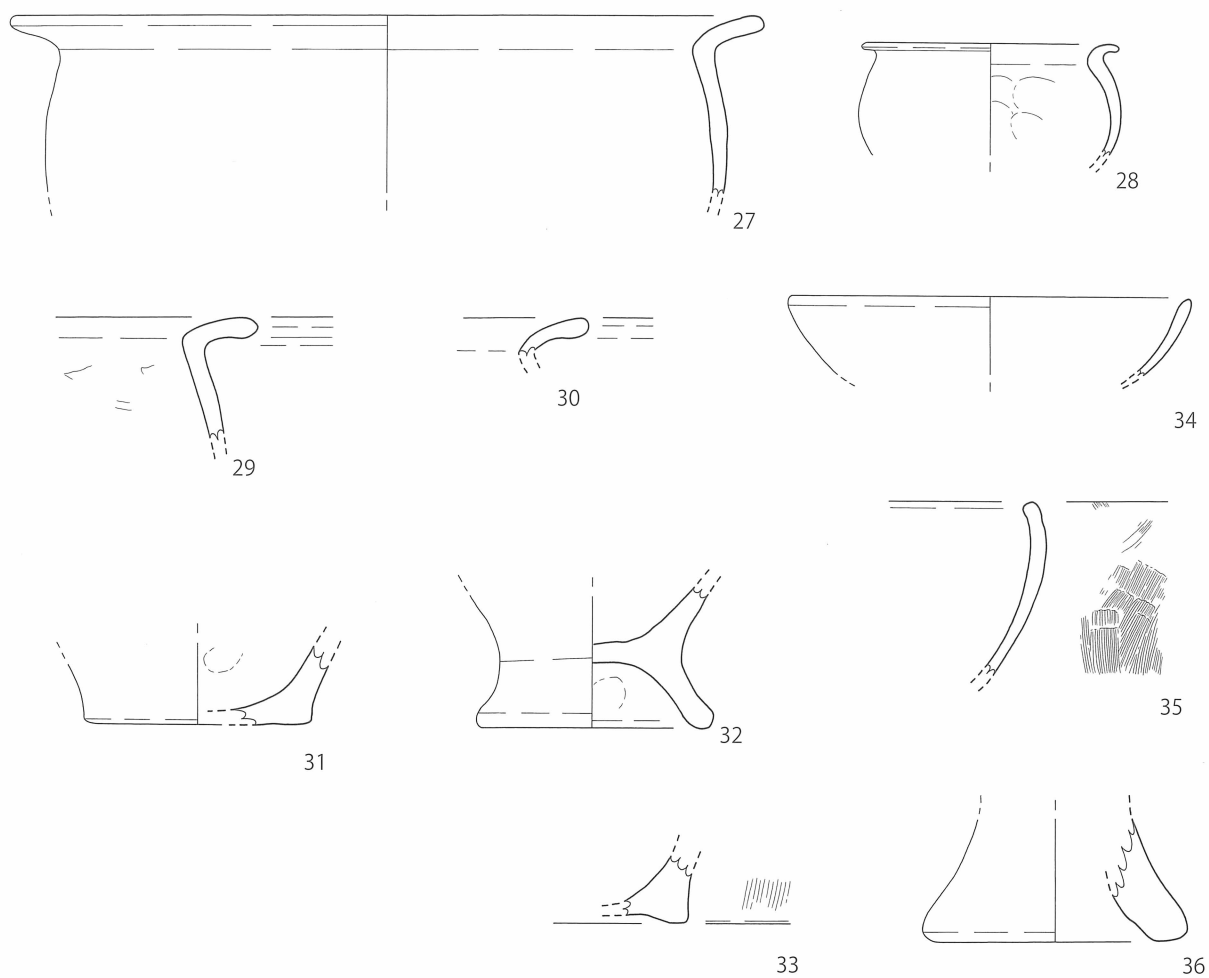
37は短頸壺片で、口縁部が袋状を呈する。肩部に6
条ほどの沈線が確認できる。38は壺の体部で、摩耗
がひどく剥離している。39は器台。43は砥石片で、
44は砥石で複数の使用面が両面にみられる。



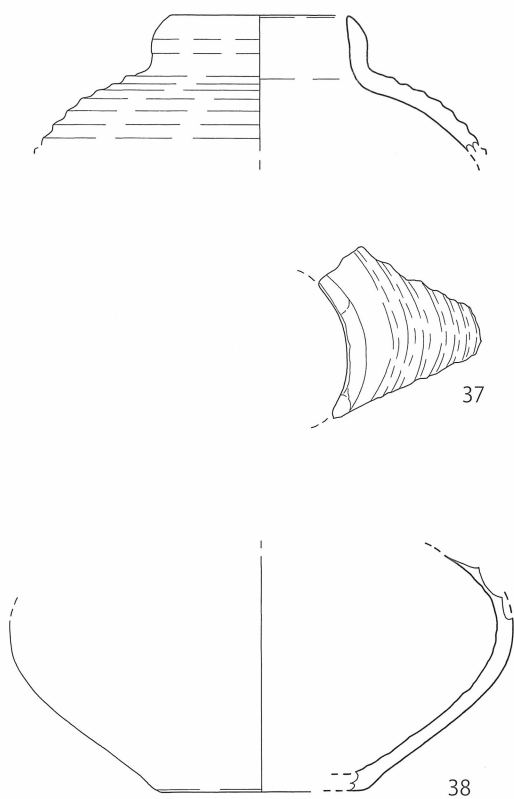
第12図 高島遺跡（5次調査）2号竪穴住居 出土土器実測図〔1／4〕



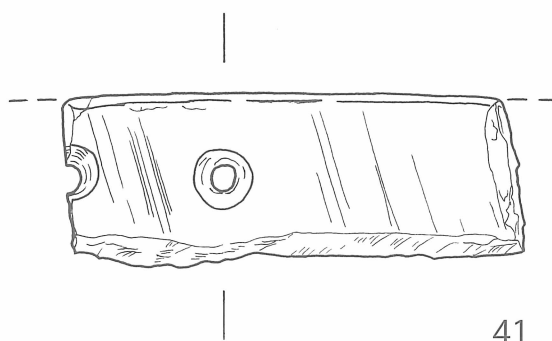
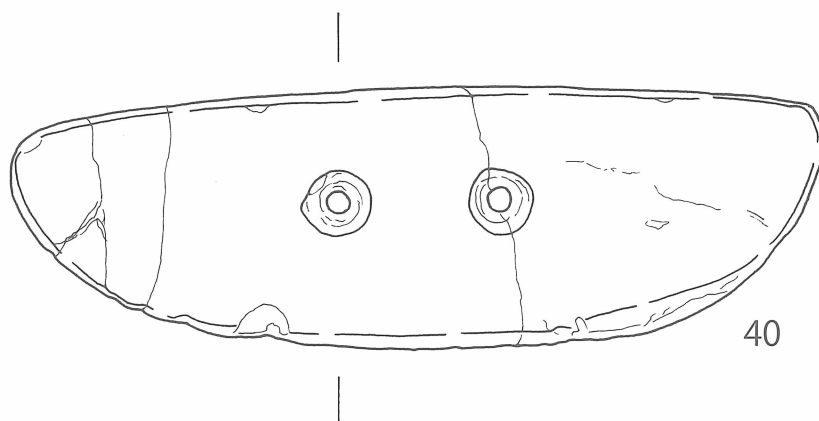
第13図 高島遺跡（5次調査）6号土壇 出土土器実測図〔1／4〕



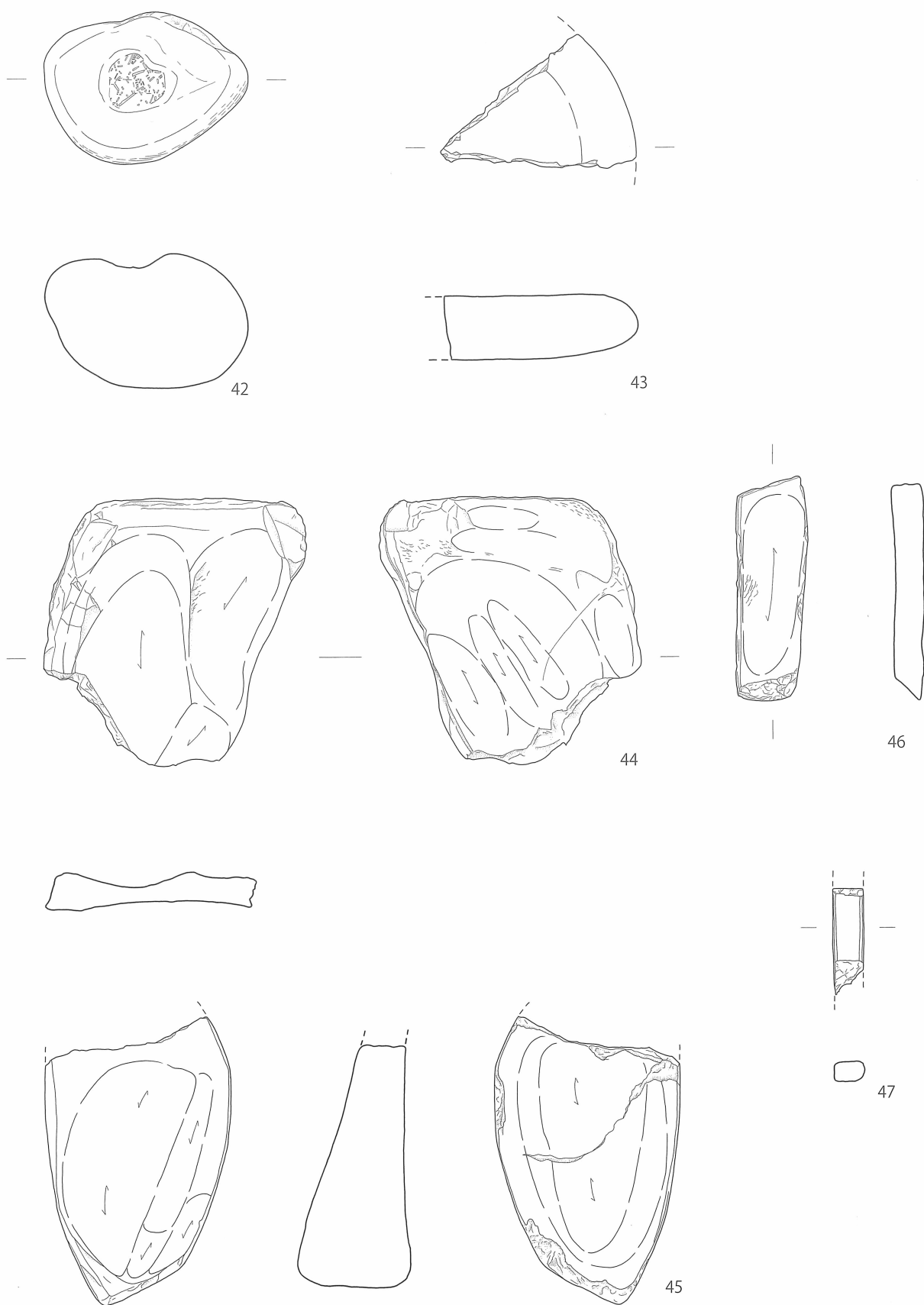
第14図 高島遺跡（5次調査）2, 4, 8, 9号土壇 出土土器実測図〔1／3〕



第15図 高島遺跡（5次調査）12号土壇 出土土器実測図〔1／3〕



第16図 高島遺跡（5次調査）出土石製品実測図〔1／2〕



第17図 高島遺跡（5次調査）出土石製品実測図〔1／3〕

挿図	番号	実測番号	出土遺構	器種	口径 長さ (cm)	底径 幅 (cm)	器高 厚さ (cm)	色調 / 胎土 / 焼成	備考
第 12 図	1	R-43	SH-02	甕	33	9	35.7	内淡黄茶色、外淡黄茶褐色、丹塗りあり / 片岩、石英の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 12 図	2	R-41	SH-02	甕	(31.0)			内淡茶色、外淡茶褐色 / 片岩、石英の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 12 図	3	R-35	SH-02	甕	23			淡茶褐色 / 片岩の砂粒を含む。赤色粒子を含む / 淡茶褐色	
第 12 図	4	R-40	SH-02	甕	(26.0)			内淡茶灰色、外淡黄褐色 / 片岩の砂粒を含む / やや良好	
第 12 図	5	R-36	SH-02	甕	(26.0)			内淡灰茶褐色、外淡黄茶褐色 / 片岩、石英の砂粒を多く含む / やや良好	
第 12 図	6	R-24	SH-02	甕	(32.0)			内灰色がかった茶褐色、外淡茶褐色 / 片岩の砂粒を含む / やや良好	
第 12 図	7	R-9	SH-02	甕		(9.2)		内淡茶色、外淡黄茶色 / 片岩、石英のやや大きめの砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 12 図	8	R-33	SH-02	甕				内淡茶灰色、外白っぽい茶灰褐色 / 片岩の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 12 図	9	R-12	SH-02	甕		(8.0)		内淡茶色、外淡黄褐色 / 片岩の細砂粒を含む / やや良好	
第 12 図	10	R-45	SH-02	甕		(9.4)		内暗茶色、外茶褐色 / 片岩、石英のやや大きめの砂粒を多く含む / やや良好	
第 12 図	10	R-46	SH-02	甕	(20.6)			内暗茶色、外暗茶褐色 / 片岩、石英のやや大きめの砂粒 6mm を多く含む / やや良好	
第 12 図	11	R-42	SH-02	甕	27.6	9	14.5	内黒っぽい茶灰色、外淡黄茶褐色 / 片岩、石英の砂粒と角閃石、赤色粒子を含む / やや良好	内側と外側上部にかけて黒く変色している
第 12 図	12	R-25	SH-02	甕	(24.1)			内淡黄褐色、外淡黄褐色 / 片岩、石英の砂粒を含む / やや良好	
第 12 図	13	R-27	SH-02	鉢	(10.8)	(3.8)		内白灰色、外淡茶灰色 / やや細かい片岩の砂粒と角閃石を含む。赤色粒子を含む / やや良好	
第 12 図	14	R-49	SH-02	器台	(10.7)	16	(13.0)	内淡茶灰色、外淡茶褐色 / 片岩の砂粒と角閃石を含む / やや良好	
第 13 図	15	R-4	SK-06	壺	(14.8)			内淡茶色、外淡茶色 / 片岩、角閃石の砂粒を少量含む / やや良好	
第 13 図	16	R-2	SK-06	壺				内淡茶色、外淡黄茶色 / 片岩・角閃石の砂粒を含む / やや良好	
第 13 図	17	R-50	SK-06	甕	(31.7)			内淡黄茶色、外淡黄茶褐色 / 片岩、石英の砂粒に角閃石、赤色粒子を含む / やや良好	
第 13 図	17	R-51	SK-06	甕				内淡黄茶褐色、外淡黄茶褐色 / 片岩、石英の砂粒と角閃石、赤色粒子を含む / やや良好	
第 13 図	18	R-34	SK-06	甕	(30.0)			淡黄茶色 / 片岩、石英の砂粒と角閃石を多く含む。7mm 大の石英を含む / やや良好	
第 13 図	19	R-15	SK-06	甕	(29.7)			内淡茶色、外淡茶色 / 片眼の砂粒を含む / やや良好	
第 13 図	20	R-20	SK-06	甕	(26.0)			内淡茶色、外淡茶色 / 1 mm～4 mm のやや大きめの片岩を多く含む / やや良好	
第 13 図	21	R-14	SK-06	甕	(24.3)			内淡黄褐色、外淡茶灰色 / 蔵頭、赤色粒子の砂粒と 5mm 大の赤色粒子を含む / やや良好	
第 13 図	22	R-13	SK-06	甕	(24.0)			内淡茶灰色、外淡黄茶色 / 片岩、赤色粒子の砂粒を含む / やや良好	
第 13 図	24	R-1	SK-06	甕		(9.6)		内淡茶色、外黄茶褐色 / 片岩、角閃石の砂粒を含む / やや良好	
第 13 図	25	R-3	SK-06	甕?		(5.8)		内淡茶色、外淡黄褐色 / 片岩、石英、やや大きめの砂粒を含む / やや良好	底部中央に穿孔
第 13 図	26	R-52	SK-06	甕 (カマド状?)	(24.1)			内赤みがかった乳褐色、外赤みがかった淡黄褐色 / 片岩の砂粒を含む。5mm 大のものを含む / やや良好	移動式カマド状
第 14 図	27	R-47	SK-04	甕	(30.0)			内淡黄茶色、外淡茶灰色 / 片岩、石英の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 14 図	28	R-28	SK-02	無頸壺	(10.2)			内黒茶色、外淡い黒茶色 / やや細かい片岩の砂粒を含む / やや良好	赤色顔料が塗布されているのが一部に残っている。主に口縁部
第 14 図	29	R-29	SK-02	甕				内淡黄褐色、外淡黄茶色 / 片岩の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 14 図	30	R-6	SK-08	甕				内淡黄茶色、外淡黄茶色 / 片岩の細砂粒を含む / やや良好	
第 14 図	31	R-17	SK-04	甕		(9.0)		内淡茶色、外淡茶褐色 / 片岩の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 14 図	32	R-31	SK-04	脚付甕		(9.4)		内暗茶褐色、外淡茶褐色 / 片岩の砂粒と赤色粒子を含む / やや良好	
第 14 図	33	R-5	SK-09	甕				内淡黄褐色、外淡黄褐色 / 片眼の細砂粒を含む / やや良好	
第 14 図	34	R-30	SK-02	鉢形土器	(16.0)			内暗黄茶色、外黒茶色 / 片岩の砂粒を (6mm 大) を含む / やや良好	赤色粒子を含む
第 14 図	35	R-32	SK-04	鉢形土器				内淡黄茶色、外淡黄茶色 / 片岩と石英の砂粒を含む / やや良好	赤色粒子を含む
第 14 図	36	R-18	SK-04	器台		(10.5)		内黄茶褐色、外黄茶褐色 / 片岩の砂粒を少量含む / やや良好	
第 15 図	37	R-53	SK-12	短頸壺	(7.0)			内淡茶色、外淡茶色 (一部黒色) / 片岩の際砂粒と角閃石、赤色粒子を含む / やや良好	
第 15 図	38	R-19	SK-12	壺		(8.4)		内淡茶配色、外淡灰茶色 / 精選されている / やや良好	
第 15 図	39	R-8	SK-12	器台		(14.9)		内淡黄茶色、外明黄褐色 / 片岩・石英の砂粒を含む / やや良好	
第 16 図	40	R-54	SH-02	石包丁	13.3	4.2	0.6		
第 17 図	41	R-55	SK-06	石包丁	14	2.8	0.7		
第 17 図	42	R-58	SK-01	敲石	10.2	7	6.9		敲打点に黒色の光沢のある鉱物が付着
第 17 図	43	R-61	SK-12	砥石	11.5	6.75	3.35		
第 17 図	45	R-57	SH-02	砥石	12.9	9.6	5.9		
第 17 図	46	R-60	SH-01	砥石	13.0	3.7	1.7		
第 17 図	47	R-56	SH-02	砥石	5.5	1.6	1.1		

図版



調査区全景（川崎病院屋上から）



1. 1号竪穴住居
(西から)



2. 1号竪穴住居
完掘状況
(東から)



3. 2号竪穴住居
(南から)

4. 2号竪穴住居
(南から)



5.
1号土壇
(北東から)



6.
2号土壇





7.
3号土壇
(南から)



8.
4号土壇
(北から)



9.
5号土壇
(北から)

10.
6号土壇
(北から)



11.
12号土壇
(北西から)





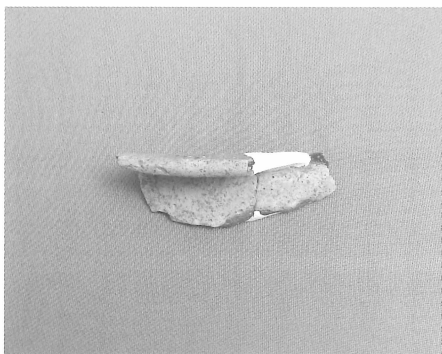
1. 2号竖穴住居



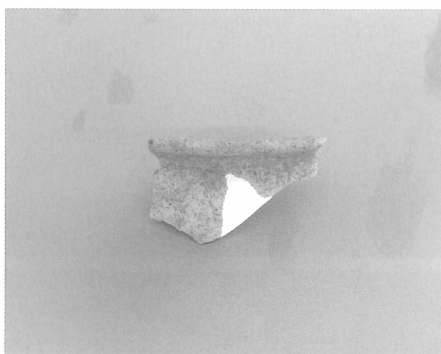
2. 2号竖穴住居



3. 2号竖穴住居



4. 2号竖穴住居



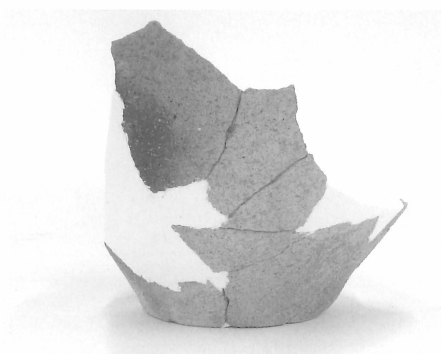
5. 2号竖穴住居



6. 2号竖穴住居



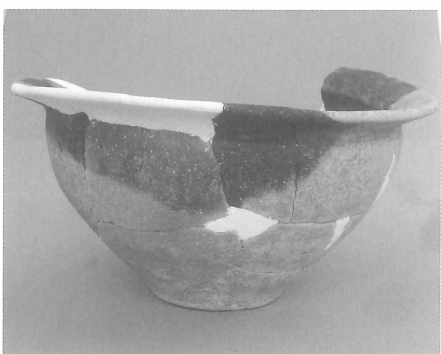
7. 2号竖穴住居



8. 2号竖穴住居



9. 2号竖穴住居



11. 2号竖穴住居



13. 2号竖穴住居



14. 2号竖穴住居



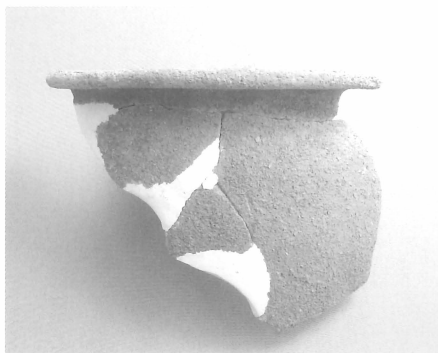
15. 6号土壙



16. 6号土壙



17. 6号土壙



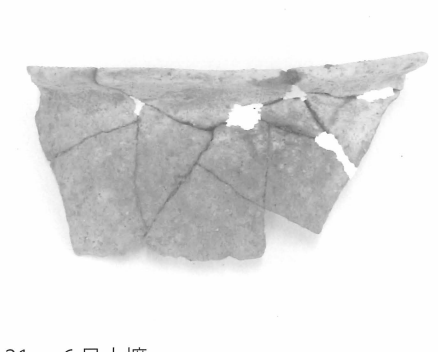
18. 6号土壙



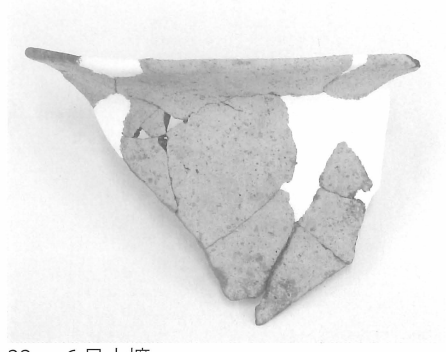
19. 6号土壙



20. 6号土壙



21. 6号土壙



22. 6号土壙



23. 6号土壙



24. 6号土壙



25. 6号土壙



26. 6号土壙



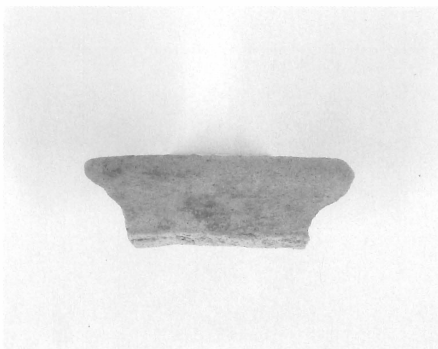
27. 4号土壙



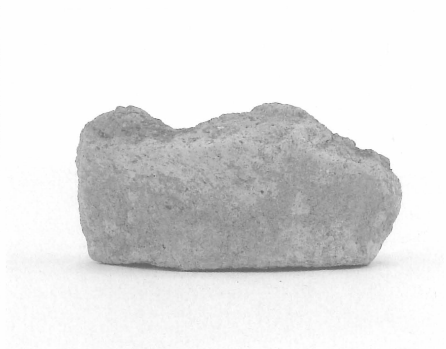
28. 2号土壙



29. 2号土壙



30. 8号土壙



31. 4号土壙



32. 4号土壙



33. 9号土壙



34. 2号土壙



35. 4号土壙



36. 4号土壙



37. 1 2号土壙



38. 1 2号土壙



39. 1 2号土壙



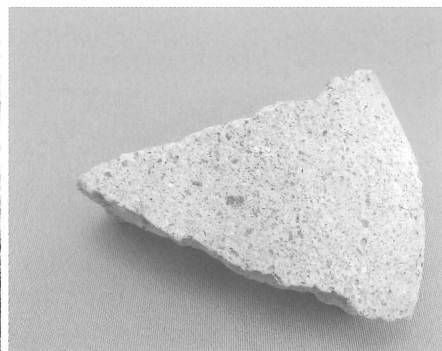
40. 2号竖穴住居



42. 1号土壙



42. の敲打部拡大



43. 1 2号土壙



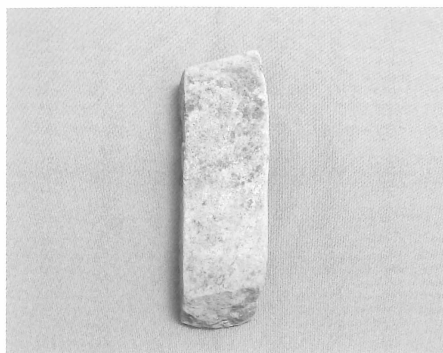
44. 9号土壙



(表) 44. 9号土壙



(裏) 45. 2号竖穴住居



46. 1号竖穴住居



47. 2号土壙

報告書抄録

ふりがな	たかしまいせき（5じちょうさ）							
書名	高島遺跡（5次調査）							
副書名	福岡県八女市津江字高島所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第101集							
編著者名	永田 寧							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2014年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号							
たかしま いせき 高島遺跡 （5じちょうさ） （5次調査）	ふくおかけん 福岡県 や め し つのえあざたかしま 八女市津江字高島	402109		33°12'52"	130°34'34"		2,000㎡	介護つき 有料老人 ホーム
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
高島遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居2 土壇12 柱穴多数	弥生土器多数				

高島遺跡（５次調査）
八女市文化財調査報告書
第１０１集

平成26年３月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町 6 4 7
印刷 (株) 東 兄 弟
八女市祈祷院 5 6 3